

雪舟回廊

庭園間交流連携促進計画

CHUGOKU
REGIONS



萬福寺庭園 (島根県益田市)



常栄寺庭園 (山口県山口市)

令和2年7月 雪舟回廊協議会

取組の将来像（ビジョン）

室町時代の日本を代表する芸術家として知られる雪舟。

また、国外に目を転じると“世界十大文化人”の一人に選出された日本の文化人でもあります。画家を志す人でなくとも、その名を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

この度の庭園間交流促進計画では、平成 2 年（1990）から取り組んでいる、雪舟サミットの枠組を基礎として、雪舟ゆかりの自治体が観光交流の分野で交流し、インバウンドへのアプローチを含めて、相互の人の流れの創出や、まちの活性化を図ることを目的に取り組むものです。

雪舟サミットとは

雪舟は、生誕地は分かっているものの、いつどこで亡くなったのか詳しいことが分からないなど、謎多き人物ではありますが、旅する画僧の側面を持っていたため、日本各地に雪舟ゆかりの地が残っています。

平成 2 年（1990）に、岡山県総社市の呼びかけのもと雪舟ゆかりの地の自治体が集い、「画僧雪舟の顕彰及び自治体相互の交流と親睦を図るとともに、雪舟を一つの柱としたまちづくり」を目指し、雪舟サミットを開催しました。現在のサミット加盟自治体は、岡山県総社市、岡山県井原市、広島県三原市、島根県益田市、山口県防府市、山口県山口市の 6 市となります。

**今後のサミット開催予定****令和 2 年（2020）**

会場：総社市

備考：雪舟生誕 600 年

令和 3 年（2021）

会場：山口市

備考：山口ゆめ回廊博覧会開催（県央連携都市圏域における周遊型博覧会）

近年では 2 年に 1 度の頻度で、構成市の持ち回りでサミットを開催し、雪舟の業績を顕彰するとともに、互いのまちづくりについて情報交換を行い、友好と親睦を深め、それぞれに個性的で特色のあるまちづくりに取り組んでいます。

2020～雪舟生誕 600 年～

令和 2 年（2020）は、雪舟が 1420 年に備中赤浜（現・岡山県総社市）に生誕して 600 年の節目の年となります。

また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催予定であった年でもあり、こ

の取組の一環として、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興をはかり、その普遍的な魅力を発信する取組として、日本全国を舞台に『日本博』が開催されています。雪舟生誕 600 年とも重なり、『日本博』関連の事業では、雪舟の絵画作品が展示される企画も多く計画されています。

雪舟の美の世界を体感できるものは、絵画作品だけではなく。日本庭園も、“日本の美”として、世界に発信されるコンテンツであり、中世の日本庭園といえは、“伝雪舟庭”もその重要な要素で、多くの人々を惹きつけています。“絵画作品”だけでは伝わらない雪舟の世界観が“庭園”を通じて見えてくるものがある、その逆もしかりで、“絵画作品”と“庭園”の両作品を通じて、雪舟が発信した“日本の美”を体感するものとして、この庭園間交流促進計画を企画しました。

ー私たち雪舟ゆかりの 6 自治体を目指す地域の将来像（ビジョン）ー

【連携による地域資源の魅力度向上】

・伝雪舟作庭園や雪舟ゆかりの地など、個々で見ると既に、国や県・市の文化財に指定され、その歴史文化的価値については認められています。この取組を通して、再度、個々の構成要素の持つ魅力を洗い出し、本計画のテーマに基づき連携させることにより、新たな魅力の創出を図り、地域資源の磨き上げを行ってまいります。

【協働（自治体間、官民間）の促進による魅力的なまち・地域づくり】

・雪舟の顕彰及び具体的な取り組みを通して、地域住民等の地域資源への周知促進を図るとともに、地域に対する誇りの醸成を進め、市民と行政の協働による魅力的なまちづくりを実現します。雪舟は 1956 年の世界平和協議会で世界十大文化人に選出され、日本人で初めて海外切手の図案に採用されるなど国内外に影響力を持った人物です。そうしたことを踏まえ、この取組を契機として、世界に誇る文化資源として広く発信してまいります。

【観光入込客数の増加による地域経済への貢献】

・庭園を中心とした雪舟の作品をたどるストーリーの構築及びそれを誘う情報発信を行うことにより、観光客が来訪するきっかけづくりを進めます。併せて、宣伝・受け入れ態勢の充実を図るとともに、周遊促進に伴う滞在・滞在時間の延長に係る取組を進め、地域経済等の活性化を図ります。

【参考】

●雪舟作庭伝承の残る 5 つの文化財庭園（☆マークは、本計画の構成庭園）

国指定史跡及び名勝

☆『医光寺庭園』（島根県益田市）

☆『萬福寺庭園』（島根県益田市）

☆『常栄寺庭園』（山口県山口市）

国指定名勝

- ☆『常徳寺庭園』（山口県山口市）
- 『旧亀石坊庭園』（福岡県添田町）
- 『藤江氏魚樂園』（福岡県川崎町）

●国宝に指定されている雪舟の絵画作品

- 『紙本墨画秋冬山水図』（東京国立博物館）
- ☆『四季山水図（山水長巻）』（毛利博物館）
- 『紙本墨画山水図』（東京国立博物館）
- 『慧可断臂図』（愛知県 斉年寺）
- 『天橋立図』（京都国立博物館）
- 『山水図』（個人蔵）

●本計画の構成要素施設で鑑賞できる雪舟の絵画作品

- 『四季山水図（山水長巻）』（毛利博物館）
- 『益田兼堯像』（雪舟の郷記念館）
- 『花鳥図』（雪舟の郷記念館）※伝雪舟筆（雲谷派絵師による可能性あり）

取組全体の範囲がわかる位置図（地図等）

雪舟回廊 全体位置図



①井山宝福寺



②御許山佛通寺



③常栄寺庭園



⑥常徳寺庭園



⑦大内氏館跡 枯山水庭園



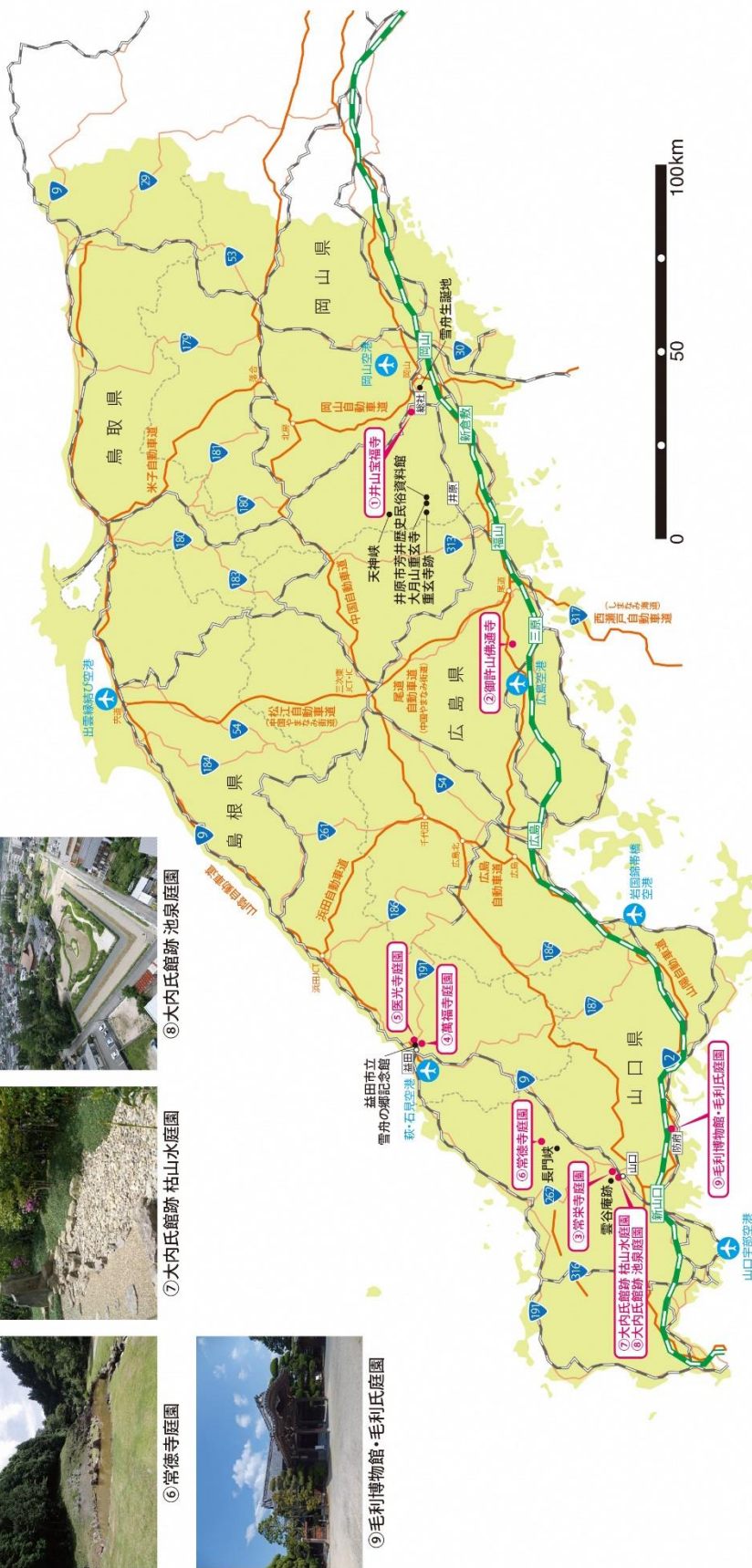
⑧大内氏館跡 池泉庭園



⑤医光寺庭園



④萬福寺庭園



構成庭園の位置図（地図等）

①井山宝福寺



②御許山佛通寺



③常栄寺庭園



④萬福寺庭園



⑤医光寺庭園



⑥常德寺庭園



⑦大内氏館跡 枯山水庭園



⑧大内氏館跡 池泉庭園



⑨毛利博物館・ 毛利氏庭園



移動手段と所要時間の目安

首都圏から



関西圏から



九州圏から



周遊ルート

①雪舟庭園満喫コース

1泊
2日



②雪舟の足跡を巡る旅

1泊
2日



③雪舟と中世の街並みコース

2泊
3日

(公共交通を利用して益田、山口、防府を回る場合)



計画のテーマ

室町時代のみならず、日本美術史上最も有名な芸術家のひとりである雪舟は、国宝 6 点をはじめとする絵画作品だけではなく、作庭においても優れた才能を発揮したと伝えられ、雪舟作と伝える庭園が今に伝えられ、多くの人々を引き付けています。

～雪舟の魅力とは

雪舟登場以前の日本絵画は、繊細で小さくまとまったものであったのに対し、雪舟の作品は、“ごつごつとした”、“無骨さ”が強く感じられる大胆な山水画やリアルな花鳥図まで幅広い表現手法を用いて、のびのびとした絵画作品となっています。

雪舟の作品について、古くは、狩野派の絵師が雪舟の絵画作品を手本としたことから、多くの模本が狩野派絵師によって残されています。また、明治時代中期に、日本古美術の再発見と近代日本画の開拓に貢献したアメリカ人・フェノロサは、著書『東亜美術史綱』において、雪舟のことを“神の如き天才を懐ける”、“雪舟の画風は亜細亜美術の広き範囲における中心を為せり”、“雪舟は世界美術の全局における直線及稜角の最大家なり”と評しています。また、フェノロサとともに活躍した岡倉天心は、著書『東洋の理想』において、“雪舟は足利時代の代表的書家である”としています。

一方で、岡本太郎は、“雪舟はある意味で日本画壇の第一歩を進めた人である。”としつつも、“芸術ではない”と言い切っています。

雪舟は、これまでに多くの研究者や、文筆家によって様々な評価を受け、その評価も大きく分かれる芸術家ですが、それほどまでに、日本美術史上において、大きな影響力を持つ人物です。

～伝雪舟作庭園とは

雪舟が作庭したと伝承が残るいずれの庭園も、雪舟作であることを示す同時代史料はないものの、近世の地誌や伝承などで“雪舟が作庭した”とされており、その伝承が現代に伝わっています。

雪舟の絵画作品を研究されている美術史家の島尾新氏は、「本当に雪舟が造ったのか？」と聞かれると「わからない」としか答えようがない、としつつも、「火のないところに煙は立たない」として、雪舟が造ったと伝承が残るには、何か理由があるのだろう、としています。

そのように見てみると、萬福寺庭園や医光寺庭園のある益田には晩年の雪舟が滞在し、当時の領主益田氏の肖像画「益田兼堯像」など作品を残しています。山口は雪舟のパトロンであった守護大名大内氏の本拠地で、常栄寺庭園は、大内氏の当主・大内政弘の母の菩提寺であった妙喜寺の庭園であるほか、同じく山口の常德寺庭園は、益田と山口を結ぶルートの中にあることなど、雪舟の足跡が残る地に、これらの“伝雪舟作庭園”は存在しています。



雪舟が作庭したと伝わる常栄寺庭園

作庭家で庭園史家でもある重森完途氏は、雪舟作庭伝承の残る庭園の観察から、①石を垂直に構成すること、②重ねかけるような石の組み方をすること、③長い石を護岸石組に用いて、石の組み方に

垂直的な構成がみられることなど、独特な石組をその特徴として指摘しています。また、庭園を構成する“地割”にその特徴を指摘する専門家もいるほか、借景部分も含めた庭園の景観と、雪舟の水墨画の景観の類似性から、雪舟と庭園との関連性を指摘する専門家もいます。

また、東洋文化研究者で著述家のアレックス・カー氏は、常栄寺庭園について、「立石の持つエネルギーや滝の流れなど、常栄寺の庭を見渡してみると、庭に山水画を展開しているようで、雪舟の庭ということが納得できる気がしました」と、述べています。

～雪舟の歩み

雪舟は、応永 27 年（1420）に備中国赤浜（現・岡山県総社市）で生まれ、子供のころに地元の①宝福寺に預けられています。雪舟の子供の頃の有名なエピソード「涙で書いたネズミ」は、この宝福寺でのお話です。その後、京都・相国寺で修業したのち、西国屈指の有力大名・大内氏のもとで働かないか、と誘いを受け、山口（周防国）へと向かいます。

大内氏のもとでは、画僧としての役割のほかに、“各地の情報収集”として多くの旅をし、また、山口に来た多くの要人とも会いし、これらから得た他国の情報を絵に描きとめるなどして、大内氏にもたらす役割もしていました。時代が戦国時代へと移るなか、雪舟がもたらす情報伝達の価値は高まり、雪舟の社会的な地位を押し上げるものとなりました。

山口に来てから十数年が経過し、応仁の乱の勃発した年である応仁元年（1467）に、大内氏の遣明船のメンバーとして中国・明に渡り、画業を修めました。日本に帰国してからは、小倉や大分など北部九州を旅したのち、山口の雲谷庵を拠点として、②三原・佛通寺など各地を巡ったほか、晩年は大内氏の隣国石見国の有力な領主益田氏のもとにも寄寓しました。この時期に、伝雪舟作庭園が各地に造られたものと考えられます。山口滞在中は、アトリエ・雲谷庵において、「四季山水図（山水長巻）」など、多くの作品を描きました。また、大内家の当主・大内政弘に命じられ、妙喜寺の庭園（③現・常栄寺庭園）を作庭したとされています。益田では、益田氏当主の「益田兼堯像」を制作した際に、④萬福寺庭園を作庭し、その後、崇観寺（現：医光寺）の住職を務めた際に、⑤医光寺庭園を作庭したとされています。⑥常德寺庭園は、庭園の所在する場所から推測すると、山口と益田の間を移動する際に造られたのかもしれません。

雪舟の没年や、没地には諸説があり、益田、備中国吉井（現、岡山県井原市重玄寺跡）、山口など各地にその伝承が残っています。

雪舟が没したのち、時代は下剋上の戦国の世へ移り、雪舟のパトロンであった大内氏は、重臣の陶氏に滅ぼされ、その陶氏も毛



『雪舟生誕地碑』
岡山県総社市



雪舟が山口における拠点
とした『雲谷庵跡』



重玄寺跡に残る『雪舟墓』

利氏に討たれ、大内氏の本拠・山口は、毛利氏の領国となりました。

大内氏が山口に残した文化遺産のうち、建造物は、毛利氏が親交のあった諸大名に贈られたり、毛利氏が本拠地とした萩へと移転したりしましたが、美術工芸品の多くは、毛利氏が引き継ぎ、手元へ置きました。そのうちの 하나가、雪舟の代表作とされる国宝「四季山水図」（いわゆる山水長巻）です。大内氏の愛でた名品は、毛利氏へと引きつがれ、毛利家の至宝として大切に保存されてきました。現在は⑨毛利博物館で所蔵され、毎年 11 月に特別展示されています。



大内氏の至宝を所蔵する
『毛利博物館』

～ 本計画のストーリー

今回提出する企画は、雪舟サミット構成自治体に所在する雪舟の作庭伝承を持つ庭園を中心にゆかりの地をつなぐことで、「雪舟の作品に出会うことができる旅」をテーマとして、地域のにぎわいや交流の創出を図ろうとするものです。

本計画では、①雪舟が理想とする景観を実際の大地に表現した“伝雪舟作の庭園”、②雪舟が描いた絵画作品を鑑賞できる施設や空間、③雪舟が絵画作品を描く際や、庭園を作庭する際に参考としたとの伝承が残る景勝地や、生誕地や没地といった雪舟ゆかりの地、など 3 つの視点から雪舟に関係する自治体を結びつけることにより、雪舟が見たであろう風景や雪舟の世界観を追体験できるものとしたします。

水墨画というと、中国の雄大な自然や禅宗の仏画といったような実世界とは離れた抽象的な絵画と言うイメージもありますが、雪舟にあっては水墨画などの絵画作品のみならず、実在する“伝雪舟作庭園”や、画業や作庭の参考にしたであろう“景勝地”やゆかりの地をおとずれることにより、雪舟作品の世界観を身近に感じるとともに、作品自体の魅力や奥深さも感じることができます。また、雪舟が頼みとした大内氏が築かせた同時代の発掘庭園（大内氏館跡 ⑦池泉庭園・⑧枯山水庭園）を組み込み、併せて鑑賞できる内容とすることで、“伝雪舟作庭園”の独創性をより理解いただけるものと考えています。



雪舟が示寂前に滞在した
とされる『佛通寺』



雪舟が画業の参考とした
とされる景観『長門峡』

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	いやまほうふくじ ①井山宝福寺	構成庭園の 所在地	岡山県総社市井尻野 1968
1	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】約 13,800 m² 【入園料金】無料 【公開時期】5 時～17 時 【施設管理者】宗教法人宝福寺（民間） 井山宝福寺は、臨済宗東福寺派の中本山で、多くの高僧を生み出している地方にはめずらしい大きな寺院。岡山県指定史跡。もとは天台宗の古刹で、鎌倉時代の貞永元年（1232）に当時の住職・鈍庵和尚が、現在の地に伽藍を建立したといわれています。その後、京都東福寺開山の円爾弁円（聖一国師）の教えに深く感銘し、弁円の弟子・玉溪を迎えて宝福寺を臨済宗に改めました。山陽道筋の布教の拠点寺院として栄えた宝福寺でしたが、天正 3 年（1575）に起こった備中兵乱によって、三重塔など、わずかな建物を残すのみとなり、以後しばらくの間荒廃しました。江戸時代に入り、岡山藩・浅尾藩などの力添えと歴代住職の努力によって現在にみられる姿に再興されました。仏殿や方丈などの七堂伽藍を備えた境内は、禅宗特有の趣を感じさせます。 8 月を除く毎月第 2 日曜日には、定例座禅会（対象：中学生以上、志納金：500 円）、毎年 8 月 1 日～5 日には、暁天座禅（対象：中学生以上、志納金：500 円）が開催されています。希望により、座禅体験（対象：小学生以上、志納金：献瓦 1000 円、電話により日時を決定）も受け付けています。	
		雪舟が僧としての修行を始めた場所。小僧の頃の雪舟の絵の才能を伝える有名な伝承、流した涙で足の指を使ってネズミの絵を描いたという逸話の舞台となった場所です。	

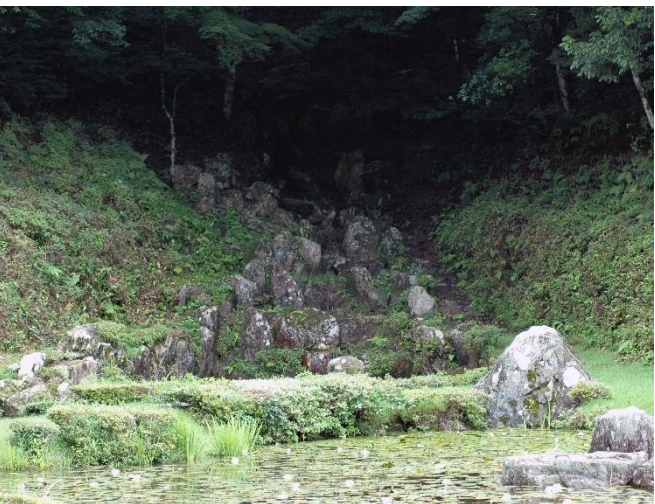


構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	ふりがな ②御許山佛通寺	構成庭園の 所在地	広島県三原市高坂町許山 22 番地
1	構成庭園 の概要 (※2)	～ 佛通寺について～ 【拝観時間・料金】 通常 8 時～17 時 無料 紅葉シーズン 9 時～17 時 大人 300 円／学生 200 円／小学生以下無料 ※境内以外は常時見学可能 佛通寺は、応永 4 (1397) 年に小早川春平が愚中周及を迎えて開いた、臨済宗の寺院です。雪舟の没地との伝承が残る岡山県井原市重玄寺はこの臨済宗佛通寺派の寺院です。また、近世の史料には、「雪舟が重玄寺で示寂する前に佛通寺に滞在していた」と記しているものもあります。 紅葉の名所であり、毎年紅葉シーズンになると、多くの参拝客が訪れます。 また、紅葉シーズンに合わせて、佛殿や本堂を拝観することができる特別拝観を行っており、令和元年 11 月 3 日 (日)・4 日 (月・祝) には、普段拝観することができない国重要文化財含暉院地蔵堂の特別公開を行いました。 佛通寺は、雪舟が原図を描いたとされる「金山図」と「育王山図」を所蔵しています。雪舟が描いたとされる原図は、佛通寺が所蔵していたとされていますが、江戸時代初期に広島藩主浅野氏が召し上げたとされています。その代わりとして、狩野安信に描かせた模写を、佛通寺に寄贈し、その絵は現在まで佛通寺に残っています。 ～ 佛通寺庭園について～ 【開園面積】 約 100 m² 【入園料金】 無料 【公開時期】 常時 【施設管理者】 宗教法人佛通寺 (民間) 佛通寺境内地には、佛通寺を開山した愚中周及の詩「護法の銀の龍九天より下る。崑崗の玉を砕いて飛泉となる。」から名付けられた、崑崗池があります。 崑崗池には、雪舟がつくったとされる庭園があります。 安永 6 (1777) 年に、岡岷山が描いたとされる「紙本著色 御許山勝興図」にも、崑崗池が描かれています。		
	計画のテーマでの 位置づけ (※3)	雪舟作庭伝承の残る庭園。雪舟による作庭ののち、江戸時代に一度、改修されたと伝わります。		



構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	③ じょうえいじていえん 常栄寺庭園	構成庭園の 所在地	山口県山口市宮野下 2001-1
1	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】 42,888 (㎡) 【入園料金】 大人 300 円、中高生 200 円、小学生以下 無料 【公開時期】 通年 (年中無休) 【施設管理者】 宗教法人常栄寺 (民間) 雪舟の水墨画の世界を具現化した名園 常栄寺庭園は、15 世紀後半 (室町時代中期)、守護大名・大内政弘が雪舟に命じて作庭させたとの伝承が残る庭園です。 庭園の構想意匠が佳く、風韻に富む立石の手法に於いて特殊なるものあり、多少の改築の跡があるものの、大部分は善く古態を存し、稀にみる名園として保存の必要あるを認むとして、大正 15 年 (1926) 2 月 24 日に国の史跡及び名勝に指定されています。 ～ 質的に日本庭園随一と評される滝石組 ～ 見どころ満載とも言われるこの庭園の最大のハイライトは、庭園北東奥の山畔に築かれた滝石組です。室町時代の庭園を代表するともいわれるこの滝には、勇壮な段落ちの滝石が組まれ (龍門瀑)、大滝の下の池には「鯉魚石」と呼ばれる立石が配され、「登竜門伝説」を元に、まさにこれから滝 (龍門瀑) を登って龍になろうとする鯉の姿が表現されています。この滝石組を遠景とし、滝石組の前に配置した池泉を中景、池泉の手前には、近景として枯山水の石組が配され、これらの景観に表現された遠近法は、雪舟の絵画作品にみられる遠近法との類似性が指摘されています。		
		 		

～ 蓬萊思想を主題とした大池～

庭園の中央に位置する池泉には、鶴島、亀島、船石が組みられています。軽快な構成で庭の景色に溶け込むような自然風の意匠の鶴島、亀島に対し、船石は具象的な形がとられています。これは、この庭園の主題が、施主一族の繁栄であり、あたかも鶴島を迂回して蓬萊に向かおうとしている船をイメージして、象徴的に据えられているとも言われています。



また、池と本堂の間の平庭部分には、景石がまとまって組み立てられ、枯山水の庭と言われています。これらの景石は、雪舟が中国大陆の風景から得たと伝えられる“三山五嶽”をなぞらえたものであるとも、評されています。

～ 直線と角との最大巨匠である雪舟～

明治中期、日本古美術の再発見と近代日本画の開拓に貢献したアメリカ人・フェノロサは、雪舟のことを「雪舟は世界の芸術界においての、直線と角との最大巨匠である」と評しています。この評は、雪舟の山水画に対してのものとはあるのですが、水と石に主体を置いて、特に岩の持つ硬さ・頑丈さをよく生かして構成されたこの庭園においても、“直線と角との最大巨匠”との言葉を味わうことができます。



ライトアップされた紅葉の雪舟庭

～ 常栄寺と重森三玲の名園・南溟庭なんめいてい～

室町時代、現在の常栄寺の地は、妙喜寺の寺地でした。妙喜寺は、雪舟のパトロンであった大内政弘の母（大内教弘夫人）の菩提寺であり、大内政弘が雪舟に命じ、この庭園を築かせたと伝えられています。

年間の入場者数は、4 万人（平成 30 年 1 月～12 月）。秋季や冬季には、2 日間程度の夜間開園（ライトアップイベント）が行われています。

また、指定地内には、昭和 43 年に作庭家・重森三玲によって作庭された南溟庭（なんめいてい）もあり、中世の名園と現代の名園を楽しむことができます。

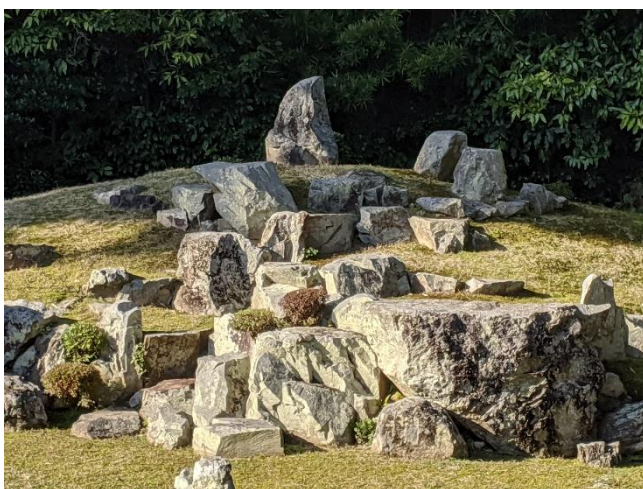


計画のテーマでの位置づけ
(※3)

雪舟作庭伝承の残る文化財庭園。国指定史跡及び名勝。雪舟が山口に滞在していた際に、守護大名大内氏によって作庭を命じられたものと伝わっています。

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	④ ^{まんぶくじていえん} 萬福寺庭園	構成庭園の 所在地	島根県益田市東町 25-33
1	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】1,419 (ha/m²) 【入園料金】500 円 (拝観料) 【公開時期】年中無休 【施設管理者】宗教法人萬福寺 (民間) 明暗のコントラストと巧みな石づかいで表現された 仏教の理想世界・須弥山 雪舟が作庭したと伝わる池泉庭園。心字池のすぐ背後に石組の築山を設け、庭全体に芝が植え込まれています。庭の中心となる須弥山石組は順次うずまき状に下降しながら周囲に広がる。清簡にして典雅なる築山泉水の古園として有数であり、昭和3年(1928)3月28日に国史跡及び名勝に指定されています。 ～須弥山思想を主題とした庭園～ この庭園の見どころは、多くの石を用いて構成された石組です。庭の中心となるのは、築山の山頂に据えられた鋭い鏃形の立石で、仏教の理想世界・須弥山を表現するものと解釈されています。須弥山とは、仏教の世界観で、この世の中心にそびえる山のことで、山の周りを海が取り囲み、さらにその周囲に山が、といったように山と海が交互に囲みあい、世界が成り立っているという様子を表現したものです。この庭園では、須弥山石を中心に、築山に配置された立石が山を表現し、周囲をめぐる池泉が海を表現しています。 須弥山石を取り巻くように、「不老石」「座禅石」など石組が組まれています。 この須弥山の世界観を表現した日本庭園は、ほかに例がなく、独創的な庭園であるといわれています。 また、これらの石組は、明の北宋式水墨山水画にみられるような立石とも解釈され、絵画的であるとも評されています。		



～ 巧みに表現された明暗 ～

庭園手前の平坦地は明るい領域に、庭園奥側の築山はやや暗い領域に、と明暗を巧みに使い分けて美しい景観が構成されています。

～ 萬福寺について ～

萬福寺は益田氏の菩提寺で、宗派は時宗です。1374 年の創建当時の様相を現代に伝える本堂も重要文化財に指定されています。その他、重要文化財の二河白道図や益田氏の交易や文化への関心の高さを示す華南三彩壺など、中世の益田の文化の粋が集まる場所となっています。

庭園を間近に鑑賞できる庫裏では、能や狂言、中世の音楽の講演や、中世の領主益田氏が戦国大名毛利元就にふるまった料理（中世の食）を食べる行事が開催されるなど、現代の益田の歴史文化の情報発信拠点としても活用されています。



上：再現された「中世の食」

下：料理の献立が記されている古文書（東京大学史料編纂所蔵）

日本遺産

「中世日本の傑作益田を味わう ー地方の時代に輝き再びー」構成文化財の一つ

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

雪舟作庭伝承の残る文化財庭園。国指定史跡及び名勝。雪舟が晩年、益田に滞在し、益田氏第 15 代「益田兼堯像」を制作していた際に作庭されたと伝わるものです。益田兼堯像は、構成要素である雪舟の郷記念館に所蔵されています。

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	⑤ ^{いこうじていえん} 医光寺庭園	構成庭園の 所在地	島根県益田市染羽町 4-29
1	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】2,197 (ha/m²) 【入園料金】500 円 (拝観料) 【公開時期】年中無休 【施設管理者】宗教法人医光寺 (民間) 山畦地形を活かした立体的な地割に表現された 不老不死を祈念する蓬莱思想の世界 雪舟が作庭したと伝わる池泉庭園。裏山を活かした池泉鑑賞半回遊式の庭園。池泉部の中央に亀島を、その対岸の出島には鶴石組を設け、蓬莱山水庭園として作られています。西側の山岸に須弥山石を置き、その下には枯滝組を設けている。山の斜面にはツツジを刈り込み、左右にもみじと長さ3メートルに及ぶしだれ桜を配した景趣清雅な泉水庭として有数であり、昭和3年(1928)3月28日に国の史跡及び名勝に指定されています。 ～ 対照的に表現された鶴と亀 ～ この庭園の見どころは、鶴亀蓬莱の表現で、不老長寿を祈念する蓬莱思想を主題とする庭園です。池の中央に配された中島上に、亀甲石、亀頭石、亀手石、亀脚石、亀尾石と、亀を表現する石がすべて配され、中島全体で亀を表現しています。 対する鶴は、池の西端に出島が配され、そこに羽石、鶴首石が据えられ、亀に比べるとやや抽象的な形で、鶴が表現されています。これらの亀と鶴は向かい合うように配置され、さらにその奥の山畔に三尊石組による枯滝が組まれ、仙人が住み不死の薬を作っているとされる蓬莱山中が表現されています。		
		  		

～ 医光寺について ～

医光寺は益田氏の菩提寺で、臨済宗東福寺派の寺院です。もとは崇観寺といい、益田氏の周旋により諸山に列せられました。崇観寺が戦国時代に何らかの理由で衰退し、後身寺院として医光寺が発展しました。雪舟は崇観寺の 5 代住職であったと伝わり、ここで茶毘にふされたと伝承が残っています。その灰塚も境内に存在します。

庭園を間近に鑑賞できる庫裏では、茶がふるまわれるほか、本堂で地元の小学校の歴史の授業が行われるなど、現代の益田の歴史文化の情報発信拠点としても活用されています。



日本遺産

「中世日本の傑作益田を味わう ―地方の時代に輝き再び―」構成文化財の一つ

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

雪舟作庭伝承の残る文化財庭園。国指定史跡及び名勝。雪舟が晩年、益田に滞在し、医光寺の前身・崇観寺の住職であった際に作庭されたと伝わっています。

構成庭園一覧表

1	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	⑥ ^{じょうとくじていえん} 常徳寺庭園	構成庭園の 所在地	山口県山口市阿東蔵目喜 1498
	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】 2,000 (㎡) 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 宗教法人常徳寺・山口市（国指定文化財管理団体） 自然岩盤を巧みに利用した秘境の名園 常徳寺庭園は、雪舟が作庭したとの伝承が残る庭園です。発掘調査により、他に例のない岩盤削り出しの滝石組や築山の独特な作庭技法、鍾乳洞の霊水の取り入れ等が判明し、優れた作庭として価値が高いことから、平成 12 年 12 月 27 日に、国の名勝に指定されています。 ～ 眠りから目覚めた名園 ～ 常徳寺庭園は、江戸時代後期に記された地誌『防長風土注進案』に、荒廃し、埋没している状況であったこと、また、雪舟が作庭した伝承が残ることが記されていました。時は経ち、平成に入ってから、これらの伝承をもとに発掘調査を行ったところ、見事な庭園が蘇りました。 昭和 40 年代の常徳寺庭園 平成 8 年の常徳寺庭園 ～ 岩盤を取り込んだ力強い造形美 ～ この庭園の見どころは、自然の露出岩盤を築山に見立てるとともに、築山の一部を滝口に見立て、対面に砂岩の大型立石を据え、切り立つ岩盤の間を縫うように溪谷から池泉に水が入ってくる表現をしているところです。また、庭園の背景には、石灰岩の岩盤が切り立つように林立しています。この石灰岩の岩盤がそびえる背景部分を遠景に、築山の岩盤と滝石組を中景に、その手前に配された池泉を近景としてなる本庭園の景観は、雪舟の絵画作品にみられる遠近法の表現との類似性や、より具体的な雪舟の作品として「秋冬山水図」（東京国立博物館蔵）の冬景図（とうけいず）と、構図が類似することが指摘されています。		

～ 池泉の水と鍾乳洞 ～

本庭園の紹介の冒頭に、国名勝に指定された際の指定理由の一部を書き出していますが、そこに、“鍾乳洞の霊水の取り入れ”との文言があります。

本庭園が位置する山口市阿東蔵目喜地区は、蔵目喜石灰岩層と呼ばれる古生代の石灰岩が広く分布しています。本庭園の南側には、地元で“こうもり穴”と呼ばれる鍾乳洞があり、そこから多くの地下水が湧き出て、庭園池泉の取水源である河川へと水を供給しています。

このことから、“鍾乳洞の霊水の取り入れ”という評価がされています。現在も、降雨のあとに、現地を訪れると、鍾乳洞から川への水の入り口から、湧水が噴出する様子を見ることができます。

また、この鍾乳洞“こうもり穴”の中には、人がひとり座れる平らな石があり、この石をいわゆる“座禅石”とみたと、雪舟作『慧可断臂図』との構図の類似性が指摘されています。

なお、現在は、入り口が積み石によりふさがれており、鍾乳洞の中に入ることはできません。

～ 常徳寺について ～

常徳寺は、これまでに幾度も火災にあっており、寺史等の類は焼失していますが、境内地にある石塔類から鎌倉時代にはこの地に寺院があったことが推測されます。雪舟との直接的な関係を示す資料は残っていませんが、雪舟作庭の伝承が残っていることは、江戸時代の文献からも散見されます。

常徳寺は、山号を出銅山としており、旧鉾山町にある寺院です。常徳寺があるこの地は、“蔵目喜（ぞうめき）”と呼ばれ、鉾山町に人が多くぞよめきに行く（あつまる）ことから、“ぞよめく”が“ぞうめき（蔵目喜）”に転じたといわれています。常徳寺周辺は、蔵目喜石灰岩群からなる地質で、古くは古代から、蔵目喜銅山として銅や鉛を産出していた鉾山です。一説には、古代の貨幣製造所であった国指定史跡周防鋳銭司跡（山口市）でも、蔵目喜銅山の銅を使って貨幣を作っていたのでは、と推測されています。最盛期は、近世初頭で、戦国武将・毛利元就へ、蔵目喜銅山産の鉛玉が送られた記録も残っています。一時は、長州藩の直轄の鉾山として繁栄し、多くの銅や鉛を産出していました。近世後期には、産出量はわずかとなりましたが、近代に再度鉾山町として繁栄し、昭和初期まで鉾山が操業されていました。庭園の裏山や、寺周辺には、鉾山や鉾山町時代の名残も残っており、庭園だけでなく、鉾山町の面影を散策することもできます。



常徳寺庭園周辺に広がる鉾山町の面影
※赤色が鉾山関係施設跡

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

雪舟作庭伝承の残る文化財庭園。国指定名勝。江戸時代の地誌『防長風土注進案』に雪舟作庭との伝承が残ることが伝わっています。また、背景部分も含めた庭園の景観は、雪舟作『秋冬山水図 冬景図』との類似性が指摘されています。

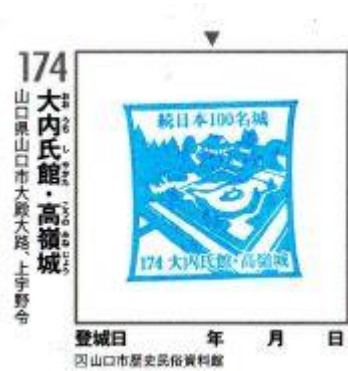
構成庭園一覧表

1	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	⑦ おおうちしやかたあと 大内氏館跡 かれさんすいえん 枯山水庭園	構成庭園の 所在地	山口県山口市大殿大路 119
	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】 200 (㎡) 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 山口市 西の都に咲いた室町時代最先端の庭園 中世の周防山口を本拠とした守護大名・大内氏の政治拠点であった館（以下、大内氏館跡とする）に築かれた庭園の一つです。本庭園を含む大内氏館跡は、大内氏の動静の根本をなすべき遺構が略略とたどり得られることは学術上貴重であるとして、築山跡、高嶺城跡、凌雲寺跡とともに、史跡大内氏遺跡附凌雲寺跡として、昭和 34 年（1959）11 月 29 日に、国の史跡に指定されています。 現在、大内氏館跡の地の大半は、大内氏当主・大内義隆の菩提寺である龍福寺の境内となっており、中心に重要文化財『龍福寺本堂』が建っています。この『龍福寺本堂』は、室町時代中期に建てられた興隆寺釈迦堂（興隆寺は大内氏の氏寺でした）を明治 16 年（1883）に移築したものであり、大内氏治下の建築技術を知るうえで、貴重な文化遺産の一つです。 大内氏館跡は、これまでの発掘調査で、館跡の外郭施設（堀や門跡など）、4 つの庭園跡などが発見されています。これらの発見された庭園のうち、本庭園（枯山水庭園）と、次にご紹介いたします池泉庭園が復元整備されています。 ～雪舟と大内氏～ 大内氏は、中国の明王朝や朝鮮王朝との交易を盛んに行ったことから、当時の山口は経済的に発展・繁栄し、京都から多くの公家や文化人が来訪していました。中国大陆に渡り、画業の修行をしたいと考えていた雪舟もその一人で、大内氏は、いわば雪舟のパトロンのような存在であり、雪舟は大内氏のお抱え絵師であり文化コーディネーターのような存在でした。 ～大内氏の盛衰を物語る庭園～ この枯山水庭園は、長い間地中に埋もれていた庭園を、発掘調査の結果にもとづいて保存整備したもので、中世の庭園文化をそのまま現在に伝えるものとなっています。本庭園の構成は、当時の当主・大内義隆が参学の師とあおいだ玉堂宗條（大徳寺 92 世）ゆかりの大徳寺大仙院庭園（国指定名勝）との類似性がうかがわれます。枯山水庭園は、当時の最先端の庭園様式で、これを大内氏がいち早く取り入れたことや、京都の文化との親密さが感じられます。 本庭園に配された石材の多くは、生々しい焼け痕が残っており、その痕跡は、大内氏の滅亡期に館が戦火により焼失した際のものと考えられることから、大内氏とともに栄え、ともにほろんだこの庭園の悲哀を示しています。		



～ 続日本百名城 ～

大内氏館は平成 29 年に、高嶺城とともに『続日本百名城』に選ばれました。『日本百名城』、『続日本百名城』とともに、多くの歴史・城ファンが訪れるスポットとなっており、庭園だけでなく、中世の城館遺跡を鑑賞するとともに、百名城スタンプラリーを楽しむことができます。



～ 中世都市の面影 ～

大内氏館跡の周囲には、大内氏による山口治下から残っている地割(道路)や、地名(大殿大路、堅小路などの大路・小路が付く通名など)が現在も残っており、中世都市山口の面影が残ります。

また、大内氏や大内文化に起源を発する多様な技術が、伝統的建造物の屋根の檜皮葺の技術や、伝統的工芸品・大内塗、山口銘菓・外郎などとして、いまでも山口のまちに、伝統として息づいています。



檜皮葺の屋根が美しい
重要文化財『龍福寺本堂』

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

雪舟と同時代の庭園。本庭園と雪舟作庭伝承の残る庭園を比較することで、配石や立石の手法が独特といわれる伝雪舟庭の魅力をより深く理解することができます。

構成庭園一覧表

1	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	⑧ おおうちしやかたあと 大内氏館跡 池泉庭園	構成庭園の 所在地	山口県山口市大殿大路 119
	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】 3,320 (㎡) 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 山口市 西国の覇者大内氏のおもてなし 中世の周防山口を本拠とした守護大名・大内氏の政治拠点であった館（以下、大内氏館跡とする）に築かれた庭園の一つです。本庭園を含む大内氏館跡は、大内氏の動静の根本をなすべき遺構が略略とたどり得られることは学術上貴重であるとして、築山跡、高嶺城跡、凌雲寺跡とともに、史跡大内氏遺跡附凌雲寺跡として、昭和 34 年（1959）11 月 29 日に、国史跡に指定されています。 ～ 雪舟と大内氏～ 大内氏は、中国の明王朝や朝鮮王朝との交易を盛んに行ったことから、当時の山口は経済的に発展・繁栄し、京都から多くの公家や文化人が来訪していました。中国大陆に渡り、書画の修行をしたいと考えていた雪舟もその一人で、大内氏は、いわば雪舟のパトロンのような存在であり、雪舟は大内氏のお抱え絵師であり文化コーディネーターのような存在でした。 ～ 発掘調査により蘇った庭園～ この池泉庭園は、発掘調査による知見をもとに、文献史料を参考に植栽なども含めて復元整備したもので、雪舟が山口に滞在した時期の庭園文化を今に伝えるものとなっています。雪舟は、山口に滞在した折、大内氏館内で用いられた襖絵を描いたという説もあり、まさに雪舟も眺めた庭園と言えるでしょう。 庭園は、全体的に戦国時代を感じさせる荒々しさはなく、平安時代の浄土庭園のように大人しく、古風な景観を示しており、大内氏独特の懐古趣味的な志向がうかがわれます。一方、文献史料からは、大内氏館の庭に“蘇鉄”が植えられていたという記述もあり、交易により様々な知識・財を持っていた大内氏の先進性や海外志向を感じることができます。 明応 9 年（1500）春、当時の当主・大内義興はこの庭園を舞台として、下向滞在中に足利義植の御成を執り行い、当時最大規模の“おもてなし”の場となりました。		
				

～ 大内氏のおもてなし ～

大内氏館の池泉庭園の周囲には、大宴会（饗応）のための『会所』（将軍足利義植をはじめとする、有力な武士などの賓客をもてなす場）が、存在したと考えられます。もちろん、池泉庭園も、客人を目で楽しませるおもてなしの一つです。

館跡の発掘調査では、饗応後に何千枚もの土師器皿や、骨・貝殻などを片付けた痕跡が見つかります。客人をもてなした際に使用された食物残滓が捨てられたゴミ穴が発掘されました。これらの骨や貝殻等を詳細に分析し、どのような材料が利用されていたのかを丹念に調べ、文献史料の調査とも合わせ、当時の豪華な食事が復元されました。美しい庭園を前に、豪華な食事で客人をもてなした、大内氏のおもてなしの心をうかがうことができます。

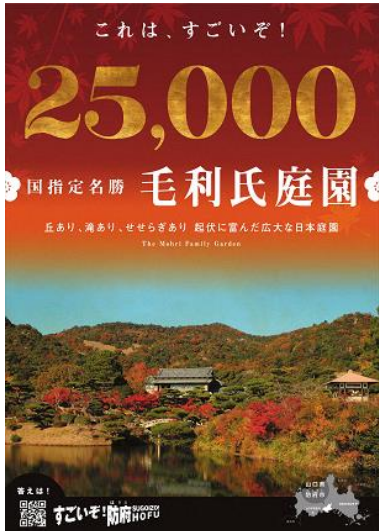
なお、大内氏のおもてなし料理は、「大内御膳」として復元されており、その料理の一部は、山陽路随一の湯量を誇る「湯田温泉」の宿泊施設で味わう（要予約）ことができます。



計画のテーマでの位置づけ (※3)

雪舟と同時代の庭園。本庭園と雪舟作庭伝承の残る庭園を比較することで、配石や立石の手法が独特といわれる伝雪舟庭の魅力をより深く理解することができます。

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	もうりはくぶつかん もうりしていえん ⑨ 毛利博物館・毛利氏庭園	構成庭園の 所在地	山口県防府市多々良 1-15-1
1	構成庭園 の概要 (※2)	【開園面積】83,957.13 (㎡) 【入園料金】下記に記載 【公開時期】通年(毛利博物館は、12月22日～12月31日休館) 【施設管理者】公益財団法人毛利報公会 毛利氏庭園・毛利博物館は、大正5年(1916)に建てられた公爵毛利家の本邸を、庭園・博物館として公開したものです。公爵毛利家は、戦国時代には中国地方の覇者として、江戸時代には長州藩の藩主として明治維新を主導した名家で、雪舟筆の国宝「四季山水図(山水長巻)」など、数多くの文化財を保有してきました。 雪舟の庭作り思想に触れる！ — 雪舟筆の国宝「四季山水図(山水長巻)」 — 庭園は、瀬戸内海に面したなだらかな多々良山(たたらやま)の南斜面を、広範囲に造成して作られています。瓢箪池(ひょうたんいけ)を中心とした池泉回遊式の形式は、江戸時代の大名邸庭園の姿をよく残し、旧長州藩主家の邸宅にふさわしい雄大なものです。同時に、瀬戸内の多島美を借景に巧みに取り込んだ構成や、コンクリート造りの大灯籠など、日本を代表する近代和風庭園として、平成8年(1996)には国の名勝に指定されています。 本庭園は他の構成庭園とは異なり、雪舟が作庭した庭園ではありませんが、庭内の石組や植栽には、雪舟の水墨画に描かれた風景を想起させる場面も多く、雪舟庭園をはじめとする、古代以来のあらゆる庭作りの思想を取り込んで成立した、日本庭園の集大成と呼ぶべき庭園です。それは、雪舟の庭園が、この地域において、後の時代、どのように受容されたかを示す好例と思われます。また、園内の毛利博物館で毎年期間限定で公開される、雪舟水墨画の最高傑作「四季山水図(山水長巻)」を見ると、自然の美しい風景が多く描かれ、そこからは雪舟が庭作りで何を目指したのか理解することができます。今回廊の各構成庭園と「四季山水図(山水長巻)」、毛利氏庭園をあわせて鑑賞することにより、雪舟の庭園を総合的に理解し、楽しむことができます。 《庭園マップ》  		

	【料金】 庭 園：大 人 400 円 小中学生 200 円 博物館：大 人 700 円(1,000 円) 小中学生 350 円(500 円) 共通券：大 人 1,000 円(1,200 円) 小中学生 500 円(600 円) ※ () 内は特別展「国宝」開催中の料金。 ※団体料金 (20 名以上) は 1 割引。 《毛利博物館》 
計画のテーマでの位置づけ (※3)	雪舟山水画の最高傑作とされる国宝の「四季山水図（山水長巻）」を鑑賞できる施設。中国伝統の山水画に、日本的要素を加味しながら、四季折々の風景を描いた同長巻には、雪舟が思い描いた理想郷が描かれています。この画卷を鑑賞することにより、各構成庭園において、雪舟が何を望み、何を目指して庭作りを行ったのか、より深く理解することができます。作品保護のため、通常期は複製の展示に留めざるをえませんが、毎年 11 月には、園内に設置された毛利博物館内で開催される特別展「国宝」において、雪舟筆の実物を公開します。 また、自然の地形を活かして作られた庭園内では、雪舟の水墨画を思わせる、多彩な石組や植栽を見ることができます。また春の梅や桜、初夏の新緑や深秋の紅葉など、四季折々に姿を変える美しさは、見る人の心に響くだけでなく、この庭園が造られた 20 世紀までの間に、雪舟の庭作りの思想が、どのように受け継がれ、日本庭園として発展を遂げたかを知ることができます。 園内に設置された毛利博物館は、山水長巻や庭園をはじめとする毛利家伝来文化財の研究施設として、50 余年の実績を有する施設です。常設の研究・見学施設として、雪舟や庭園に関するガイダンス施設を備え、いつでも来園者の疑問に直接答えることができるのは、他の構成庭園には見られない毛利氏庭園ならではの魅力です。

その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

	ふりがな 施設等の 名称	せっしゅうせいたんち 雪舟生誕地	施設等の所 在地	岡山県総社市赤浜 2025 番地
1	施設等の 概要 (※1)	【料 金】 無料 【開館時間】 年中無休 雪舟生誕地は、のどかな田園風景のなか、地元の人々によって誕生碑が建てられ、大切に守られています。 ※現在、雪舟生誕地は、令和 2 年（2020）11 月の開園に向け、雪舟生誕地公園として整備を行っています。   		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	雪舟の生涯の始まりの地。雪舟は、応永 27 年（1420）に、備中赤浜（現総社市赤浜）に生まれ、少年時代を総社市で過ごしました。		

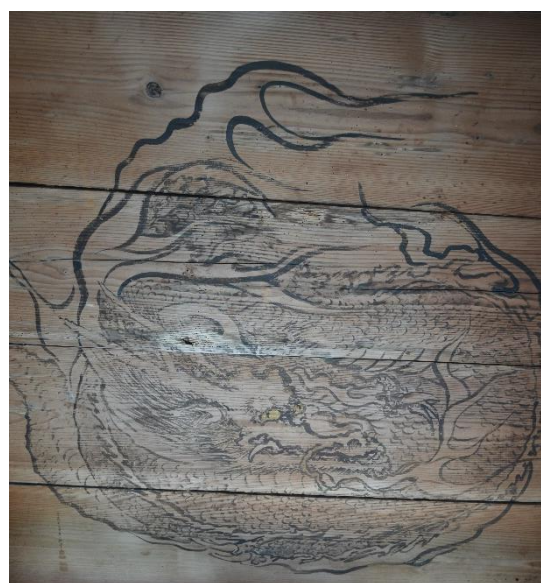
その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

1	ふりがな 施設等の 名称	うんこくあんあと 雲谷庵跡	施設等の所 在地	山口県山口市天花 1 丁目 12-10
	施設等の 概要 (※1)	【料 金】 無料 【開館時間】 9 時～17 時 ～雪舟のアトリエ～ 雪舟が山口滞在中の活動の拠点としたとされる場所です。昭和 57 年 (1982) に山口市史跡に指定されました。 雪舟は、「雲谷庵」をアトリエとし、国宝「四季山水図 (山水長巻)」(毛利博物館蔵)をはじめとする多くの絵を描いたとされています。 雪舟没後の雲谷庵は、弟子が継ぎましたが、大内氏滅亡とともに、衰退しました。その後、毛利輝元が雪舟の画法の才能を持っていると認めた画家に、雲谷庵の地を与え、雪舟の画系を継がせました。この人物が、雲谷派の祖・雲谷等顔であり、以降、雲谷派は、雪舟の画風を受け継ぐ正統的な流派として、江戸時代を通じて狩野派に次ぐ規模を誇りました。 ～再建された雲谷庵～ 現在の雲谷庵跡の建物は、明治時代に、地元の郷土史家達が古社寺などの建築部材を集めて復元した建物です。内玄関の天井には、雪舟の画法を継承した雲谷派絵師、雲谷 13 世等塊 (小野為八) 筆の雲龍図を見ることができます。 ～雲谷庵からの眺め～ この地から西方に、雪舟も見えていたであろう、大内文化の最高傑作と言われる国宝・瑠璃光寺五重塔を望むことができます。		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	中国・明からの帰国後、雪舟が周防山口における活動の拠点としたとされる場所です。山口市の史跡に指定されています。		



雲谷庵跡



雲龍図 (雲谷 13 世等塊筆)

その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

	ふりがな 施設等の 名称	おおつきざんちやうげんじ 大月山重玄寺	施設等の所 在地	岡山県井原市芳井町吉井 2035-1
1	施設等の 概要 (※1)	【料 金】 無料 【時 間】 年中無休 雪舟が没地のひとつとして伝えられる大月山重玄寺は、^{かきつ}嘉吉元年（1441）^{せんみょう}千畝^{しゅうちく}周竹和尚によって開かれた臨済宗仏通寺派の禅寺。近世地誌の『吉備物語』や『東福寺誌』に「備中の重玄寺で雪舟が没した」と記されています。重玄寺は創建以来数度の火災にあったとされ、昭和 30 年（1955）の火災では土蔵と鐘楼門を残して全焼しました。現在の寺院は昭和 49 年（1974）に残った鐘楼門と石門等を山裾の西吉井に移転し、再建されました。 なお、重玄寺跡境内地には、雪舟の墓と伝えられる墓石が残っています。 天神山の重玄寺跡は、昭和 55 年（1980）、芳井町指定の史跡になり（現在は井原市指定史跡）、重玄寺跡雪舟終焉の碑が建立されています。平成 8 年（1996）に、重玄寺開山千畝和尚の語録『也足外集』の中に雪舟と千畝和尚に親交があった可能性を示す記述が確認され、井原市と雪舟を結びつける史料として注目されています。    		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	複数ある雪舟没地の伝承の残る地の一つ。井原市指定史跡。近年の研究により、重玄寺開山千畝和尚と親交があったことが判明し、井原市と雪舟のつながりがあったことが推測されます。		

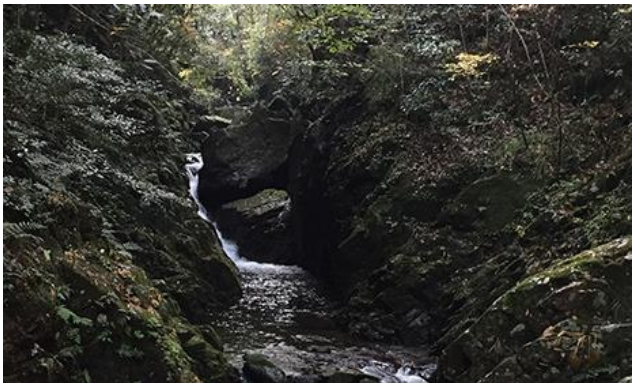
その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

1	ふりがな 施設等の 名称	てんじんきょう 天神峡	施設等の所 在地	岡山県井原市芳井町吉井
	施設等の 概要 (※1)	【料 金】 無料 【開館時間】 年中無休 天神社・黒丸社叢を中心とした小田川に沿う約 1 km にわたる景勝地で、岡山県の名勝に指定されています。 春は若葉、山桜、つつじ、藤の花が美しく、夏は緑におおわれ溪流での水泳・キャンプが楽しめます。秋はもみじの紅葉がすばらしく、冬の雪景色は山水画の趣を見せます。四季折々の変化が楽しめる小田川の清流は川魚の宝庫でもあり、魚つりにも最適。天神峡の名称は、溪谷の中心にある天神社に由来し、京都の嵐山に似ていることから小嵐峡とも呼ばれています。  		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	雪舟の作品に「山寺図」があります。原本は消失しましたが江戸時代に狩野常信が写した模本が東京国立博物館に所蔵されています。一説では、日本の穏やかな山里を描いたこの風景は、天神峡の所在する井原市芳井町吉井周辺を描いた作品であるといわれます。		

その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

	ふりがな 施設等の 名称	ちょうもんきょう 長門峡	施設等の所 在地	山口県山口市阿東篠目地内
1	施設等の 概要 (※1)	【料 金】 無料 【開館時間】 年中無休 山口市阿東から山口県萩市の日本海に向けて流れる阿武川の上流域に位置する溪谷で、国指定文化財の名勝や長門峡県立自然公園に指定されているほか、萩ジオパークの一部として日本ジオパークに認定されています。 ～台地が表現する自然の造形美～ 溪谷の兩岸には岩盤の絶壁がそびえたち、奇岩や滝、深淵などが織りなす奇勝です。ごつごつとした岩がダイナミックにそびえ、その間を穏やかに水が流れる、線と角で表現される情景は、雪舟の水墨画を彷彿とさせます。 ～長門峡と雪舟～ 長門峡には、雪舟が来往して画筆を取ったという伝承や、雪舟閑居の跡とされる平地や雪舟滝と名付けられた滝があるなど、雪舟がこの地を訪れたとする伝承が残っています。 ～冬の長門峡～ 雪舟だけでなく、山口市出身の詩人・中原中也もこの地を絶賛し、『冬の長門峡』という詩を残しています。 長門峡の入り口には、「道の駅 長門峡」やSLやまぐち号が停車する長門峡駅もあり、旅の途中を楽しむことができます。	 長門峡  雪舟滝  SL やまぐち号	
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	雪舟が絵画作品を描く際の参考としたとされる景勝地。雪舟の絵画作品の世界観を体感できます。		

その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

	ふりがな 施設等の 名称	ますだしりつせつしゅうのさときねんかん 益田市立雪舟の郷記念館	施設等の所 在地	島根県益田市乙吉町イ 1149
1	施設等の 概要 (※1)	【開館時間】 9 時～17 時まで（入館は 16 時 30 分まで） 【休 館 日】 毎週火曜日、水曜日（休日を除く） 祝日の翌日（土・日・休日を除く）、年末年始（12/29～1/3） 展示替え期間 ※ただし、当面の間、水曜日は開館します 【観 覧 料】 一般 300 円・小中高校生 100 円（20 名以上の団体は 2 割引き） ただし、企画展、特別展は上記入館料を変更します。 【駐 車 場】 無料（大型バス 10 台、乗用車 50 台） 画聖雪舟の終焉地に建つ雪舟の郷記念館は、平成 2 年（1990）10 月雪舟廟大喜庵に隣接してオープンし、雪舟と益田の歴史を展示、紹介しています。記念館周辺は、雪舟山水郷として整備され、館内外で雪舟とゆったり語り合えるいこいの空間です。 日本遺産「中世日本の傑作益田を味わう ―地方の時代に輝き再び―」の認定を受け、当面の間、そのストーリーや構成文化財の展示も行っています。 		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	雪舟作品を鑑賞することができる施設。 雪舟筆『益田兼堯像』や、伝雪舟筆『花鳥図』を収蔵し、企画展でこれらの作品を鑑賞することができます。		

その他計画の実施にあたって必要な事項

構成庭園以外で庭園間交流連携促進計画を構成する施設等について記載。

1	ふりがな 施設等の 名称	いばらしよしれきしきしんぞくしりょうかん 井原市芳井歴史民俗資料館	施設等の所 在地	岡山県井原市芳井町吉井 4110-1
	施設等の 概要 (※1)	【料 金】 無料 【開館時間】 9 時～17 時 【休 館 日】 月・木曜日（祝休日の場合はその翌日）、年末年始 吉備高原のすそ野に位置する岡山県井原市は、豊かな自然とともに深い歴史と文化を有する地域です。備中国の西の端に位置し、市域内をとる旧山陽道と山陰～瀬戸内を結ぶ東城往来により人々の行き来が盛んであったため、古くより備中備後にまたがった文化圏を築き上げてきました。 井原市芳井歴史民俗資料館は、そのような背景から市域内に残る数多くの歴史資料の保存・展示を目的として建設されました。 現在は臨済宗の祖・栄西が再興したとされる清和寺の文書、画僧雪舟の終焉の地といわれる重玄寺の文書および宝物、阪谷朗廬・内山完造の書跡など、旧芳井町域を中心に井原市内の中世から近代にかけての文書・民俗資料などの保管・収蔵を行うとともに、展示によって井原市ゆかりの人物を中心に井原市の歴史や文化をわかりやすく解説しています。  		
	計画のテ ーマでの 位置づけ (※2)	雪舟について学ぶことができる施設。 雪舟の終焉の地といわれる重玄寺の文書および宝物を収蔵・展示している資料館。雪舟に関する資料から、雪舟と重玄寺のゆかりについて学ぶことができます。		

実施する事業と実施体制

(1) これまでの取組	
(雪舟サミット) 平成 2 年 (1990) に、岡山県総社市の呼びかけのもと雪舟ゆかりの地の自治体が集い、「画僧雪舟の顕彰及び自治体相互の交流と親睦を図るとともに、雪舟を一つの柱としたまちづくり」を目指し開催。 現在のサミット加盟自治体は、岡山県総社市、岡山県井原市、広島県三原市、島根県益田市、山口県防府市、山口県山口市の 6 市。	
(2) 今後の取組	
自治体独自での官民協働の取り組み (様式 1-8 参照) に加え、下記のサミット構成自治体間での広域連携の取り組みを実施することで、前述の目指す地域の将来像 (ビジョン) を実現するとともに、民間との連携を深めるなど、持続可能な取り組みへの道筋をつける。 (広域連携の取り組み) ・ 第 18 回雪舟サミット (岡山県総社市) - 日時：令和 2 年 (2020) 11 月 20 日 (金) ～21 日 (土) - 会場：雪舟生誕地公園 (令和 2 年 11 月開園予定) ・ JAF デジタルスタンプラリー (益田・山口の、雪舟庭や雪舟ゆかりの地巡り) ・ 雪舟庭園間周遊促進事業 ※山口市、益田市で実施 ・ 庭園ガイド養成 ・ テーマ旅行の造成及び販売 ・ ホームページを活用した情報発信	
(3) 協議会の構成員	
下記、雪舟サミット構成自治体により構成。 事業の実施にあたっては、庭園管理者及び庭園以外で計画を構成する施設等、また、観光協会や交通事業者、旅行会社とも連携のもと、取り組む。 ・ 岡山県総社市 (総合政策部政策調整課) ・ 岡山県井原市 (教育委員会文化課) ・ 広島県三原市 (教育委員会文化課) ・ 島根県益田市 (産業経済部観光交流課、教育委員会社会教育課) ・ 山口県防府市 (地域交流部文化・スポーツ課) ・ 山口県山口市 (交流創造部文化交流課) 協議会の構成員については、事業を継続的に展開する上で随時、改変を加えていく予定。	
(4) 事業の実施体制	
(事務局) 島根県益田市観光交流課及び社会教育課に置く。 (事務局長) 益田市観光交流課長をもって充てる。 (企画) 協議会の構成員で行う。 (予算確保) 協議会の構成員で措置する。	
(5) 具体的な事業	様式 1-8 のとおり

具体的な事業一覧表

事業名	せつしゅうせいたんちこうえんせいびじぎょう 雪舟生誕地公園整備事業（雪舟生誕 600 年関連事業） 単独事業		
実施主体	岡山県総社市	事業期間	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	雪舟生誕地 → 雪舟生誕地公園		
事業概要	【概要】 画聖雪舟を顕彰し、雪舟について学ぶことにより、文化の向上を図るとともに、憩いと交流の場を提供するため、雪舟生誕地を雪舟生誕地公園として整備します。雪舟生誕 600 年にあわせ整備を行い、令和 2 年（2020）11 月下旬に開園予定です。 公園の面積は、約 5,600 m²、公園内には、交流施設、休憩・展示施設、雪舟像、誕生碑などを設置する予定です。		

具体的な事業一覧表

事業名	第 18 回雪舟サミット（雪舟生誕 600 年関連事業） 広域連携事業		
実施主体	雪舟サミット実行委員会 （事務局：岡山県総社市）	事業期間	平成 2 年度 ～ 原則隔年開催
実施施設	雪舟生誕地公園（令和 2 年 11 月開園予定）		
事業概要	【概要】 雪舟サミットは、平成 2 年（1990）から雪舟の業績を顕彰するとともに、雪舟を通じて友好の輪を広げることを目的に開催しており、令和 2 年は雪舟生誕 600 年を迎えることから「雪舟生誕 600 年記念雪舟サミット」として雪舟生誕の地である総社市で開催します。 会場は、雪舟生誕 600 年にあわせ整備をしている雪舟生誕地公園とし、同公園の開園イベントとあわせ 11 月下旬に開催する予定です。 内容については、基調講演、雪舟の生涯・功績の紹介、雪舟の作品（レプリカ）展示、雪舟サミット構成市の特産品等の紹介・販売ブースの設置、アトラクションなどを予定しています。 日時：令和 2 年（2020）11 月 20 日（金）～21 日（土） 場所：雪舟生誕地公園（令和 2 年 11 月開園予定）     ※写真は第 17 回雪舟サミットの様子（山口県防府市） ※第 19 回雪舟サミット 開催時期：令和 3 年度秋頃（予定） 開催地：山口県山口市		

具体的な事業一覧表

事業名	雪舟 ^{せつしゆう} 生誕 ^{せいだん} 600年記念事業（雪舟 ^{せつしゆう} 生誕 600 年関連事業） （1 部）宮島先生雪舟講演 （2 部）宮島先生を囲んで雪舟についての座談会			単独事業
実施主体	雪舟を語る会（岡山県井原市）	事業期間	令和元 年度 ～ 令和 2 年度	
実施施設	芳井生涯学習センター			
事業概要	【概要】 日時：令和 2 年（2020）4 月 18 日（土）13 時 30 分～17 時 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し延期。期日未定。 内容： （1 部）宮島新一先生による、分かりやすい雪舟さんの魅力等についての講演会 （2 部）宮島新一先生を囲んで雪舟さんについて気軽に座談会を開催 （参考） ◎宮島新一氏 日本の美術史学者。元山形大学教職大学院教授。 1946 年愛知県生まれ。京都大学大学院文学研究科修了（文学博士）。京都府に就職した後、京都国立博物館、文化庁、奈良国立博物館、東京国立文化財研究所、東京国立博物館学芸部長を歴任する。九州国立博物館設立準備室総主幹（のちに兼副館長）としてその創設に携わり、開館の翌年、2006 年に定年退職。2010 年に開催された雪舟サミット（井原市）において基調講演を行う。 ◎「雪舟を語る会」 「雪舟を語る会」は平成 4 年（1992）に発足。平成 6 年（1994）に冊子『雪舟ものがたり』を刊行。 平成 18 年（2006）には没後 500 年記念講演会を開催した。雪舟を顕彰する行事だけでなく、歴史等を学ぶ勉強会などを開催している。			

具体的な事業一覧表

事業名	ぶつづうじぶんかざいとうちようさ 佛通寺文化財等調査 単独事業		
実施主体	広島県三原市	事業期間	平成 28 年度 ～ 令和 3 年度
実施施設	佛通寺		
事業概要	【概要】 佛通寺文化財等調査委員会を設置し、雪舟ゆかりの寺院である佛通寺の文化財調査を実施しています。文化財指定や企画展など、今後の保存や活用につなげていくことを目的としています。 現在、佛通寺が所蔵する絵画や古文書などを調査し、その成果をデータベースとしてまとめているところです。 調査の成果として、雪舟の後継とされている雲谷等顔が描いた「含暉院旧書院障壁画 附 納め箱」を、平成 30 年（2018）12 月に三原市の重要文化財に指定しました。 また、調査の成果を活用し、雪舟庭園など佛通寺に関する講演会を平成 26 年度から平成 29 年度まで実施してきました。  		

具体的な事業一覧表

事業名	雪舟庭園間周遊促進事業（雪舟生誕 600 年関連事業） [広域連携事業]		
実施主体	山口県山口市 島根県益田市	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	常栄寺・常德寺（山口県山口市） 萬福寺・医光寺（島根県益田市）		
事業概要	【概要】 雪舟庭園間の周遊促進を目的に、4 つの雪舟庭園すべてを鑑賞（施設拝観）した方を対象にノベルティをプレゼントします。 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020）10 月～12 月 ※他事業と実施時期を合わせることで、回遊促進を図ります。 【参考】スタンプラリー用スタンプシート（画像は、他イベント：2019 山口市開催）  		

具体的な事業一覧表

事業名	益田市立雪舟の郷記念館開館30周年・雪舟生誕600年記念 特別展「雪舟イズム～益田・寺院所蔵の雲谷派～」(雪舟生誕 600 年関連事業) 単独事業		
実施主体	島根県益田市 益田市立雪舟の郷記念館	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	益田市立雪舟の郷記念館		
事業概要	【概要】 令和 2 年度が益田市立雪舟の郷記念館開館 30 周年・雪舟生誕 600 という節目の年であることから、益田市立雪舟の郷記念館において特別展を開催します。 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020） 前期：10 月 17 日（土）～ 11 月 16 日（月） 後期：11 月 18 日（水）～ 12 月 13 日（日）  重要文化財 雪舟筆《益田兼堯像》 (室町時代 益田市立雪舟の郷記念館所蔵) 益田市立雪舟の郷記念館基本情報（再掲） 【開館時間】9 時～17 時まで（入館は 16 時 30 分まで） 【休 館 日】毎週火曜日、水曜日（休日を除く） 祝日の翌日（土・日・休日を除く）、年末年始（12/29～1/3） 展示替え期間 ※ただし、当面の間、水曜日は開館します 【観 覧 料】一般 300 円・小中高校生 100 円（20 名以上の団体は 2 割引き） ただし、企画展、特別展は上記入館料を変更します。 【駐 車 場】無料（大型バス 10 台、乗用車 50 台）		

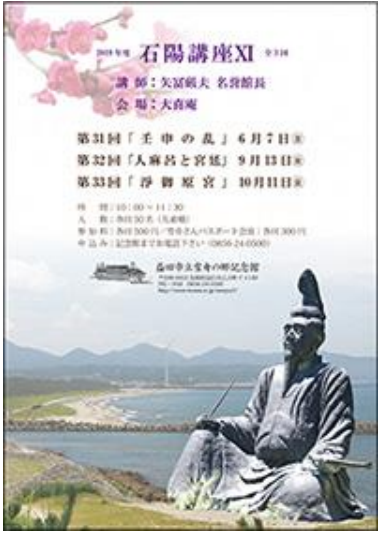
具体的な事業一覧表

事業名	せつしゅうしゅんゆう 雪舟旬遊イベント 単独事業		
実施主体	益田市立雪舟の郷記念館	事業期間	年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	益田市立雪舟の郷記念館		
事業概要	【概要】 《雪舟旬遊イベント》 毎年 11 月、雪舟の郷記念館本庭・八景園の紅葉にあわせて開催し、庭園ライトアップ、音楽演奏、益田観光ガイド友の会が振る舞うぜんざいを提供。令和 2 年で 17 回目となり、地域住民にも定着したイベントで多くの来場者で賑わう。 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020）11 月 13 日（金） 【料金】 無料 		

具体的な事業一覧表

事業名	ぶら雪舟 [単独事業]		
実施主体	益田市立雪舟の郷記念館	事業期間	年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	益田市立雪舟の郷記念館周辺		
事業概要	【概要】 記念館周辺や市内の雪舟関連史跡など、雪舟ゆかりのポイントを巡り、解説を聞きながらゆっくり散策する。ウォークや歴史好きな方に人気があるイベント。 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020）5 月頃 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し延期。 【料金】 100 円 		

具体的な事業一覧表

事業名	せきようこうざ 石陽講座 [単独事業]		
実施主体	益田市立雪舟の郷記念館	事業期間	年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	益田市立雪舟の郷記念館		
事業概要	【概要】 雪舟が晩年過ごした東光寺跡に建つ大喜庵を会場に、雪舟や人麿、益田の歴史について学ぶ連続講座。講座名は「石陽之地有高津県」と記した画聖・雪舟の関連史料「石見州大喜庵記」にちなんだ名前。全 3 回で、当館の矢富厳夫名誉館長が講師を務める。 【開催時期（予定）】 令和 2 年 5 月 29 日（金） 第 34 回「柿本人麻呂と藤原宮」 令和 2 年 6 月 26 日（金） 第 35 回「柿本人麻呂と高市皇子」 令和 2 年 9 月 4 日（金） 第 36 回「柿本人麻呂と妻への挽歌」 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全回を延期し、以下のとおり開催予定。 令和 2 年 9 月 4 日（金） 第 34 回「柿本人麻呂と藤原宮」 令和 2 年 9 月 25 日（金） 第 35 回「雪舟の謎を解く①南遊・西遊」 令和 2 年 10 月 23 日（金） 第 36 回「雪舟の謎を解く②東遊・北遊」 ※会場は大喜庵から益田市立市民学習センターに変更 ※参加者数は 50 名を想定 【料金】 500 円／回 		

具体的な事業一覧表

事業名	とくべつてん こくほう 特別展「国宝」 [単独事業]		
実施主体	公益財団法人 毛利報公会	事業期間	毎年 11 月 頃
実施施設	毛利博物館（山口県防府市）		
事業概要	【概要】 画聖雪舟の代表作であり、日本水墨画の最高傑作と言われる「四季山水図（山水長巻）」をはじめとした国宝や重要文化財など、美術的にも歴史的にも高く評価されている毛利家伝来の優品が一堂に公開される特別展。 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020）10 月 31 日（土）～12 月 21 日（月） 10 月 31 日（土）～11 月 20 日（金）は、国宝の伝雲谷等顔筆「四季山水図」を、 11 月 21 日（土）～12 月 21 日（月）は、国宝の雪舟筆「四季山水図」を展示します。 【毛利博物館蔵 国宝】 《雪舟筆「四季山水図（山水長巻）」》 (春)  (夏)  (秋)  (冬)  《菊造腰刀・同拵》   《古今和歌集（高野切本）》  《史記》 		

具体的な事業一覧表

事業名	JAF デジタルスタンプラリー（雪舟ゆかりの地めぐり）（雪舟生誕 600 年関連事業） 広域連携事業		
実施主体	雪舟サミット構成自治体	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	医光寺庭園、萬福寺庭園（島根県益田市） 常栄寺庭園、常德寺庭園、雲谷庵跡（山口県山口市）		
事業概要	【概要】 JAF が展開する『デジタルスタンプラリー2020』に、雪舟サミット構成自治体が連携して参加するもの。 構成自治体にある“雪舟ゆかりの地”に「立ち寄りポイント」を設定します。 【スタンプラリー実施期間】 令和 2 年（2020）4 月 20 日～令和 2 年 12 月 23 日 ※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、4 月 20 日の開始日を 6 月 19 日に変更 【広報】 ・『JAF Mate』4 月号～10 月号への掲載 ・『JAF PLUS』5 月号～12 月号への掲載 ・道の駅情報誌『旅案内』夏号、秋号への掲載 ・ホームページバナー掲載  中国5県の観光地(72ヶ所)、道の駅(103ヶ所)、高速道路SA・PA(61ヶ所) でデジタルスタンプを集める新しいドライブ企画です。		

具体的な事業一覧表

事業名	でんせつしゆうていえんしゃしんてん 伝雪舟庭園写真展（雪舟生誕 600 年関連事業） 単独事業		
実施主体	山口県山口市	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	十朋亭維新館（山口市下堅小路地内）		
事業概要	【概要】 十朋亭維新館内、萬代家主屋にて、山口市内に残る雪舟作庭伝承が残る庭園を紹介する写真展を行うもの。 なお、写真展開催と合わせて、展示施設である、十朋亭維新館本館展示室では、『常栄寺と萬代家の近代』として、常栄寺庭園のある『常栄寺』と萬代家の縁にスポットを当てた展示を行います。 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020）9 月 9 日～12 月 21 日 ※山口県立美術館で開催される“雪舟作品展示”と時期を合わせることにより、県立美術館来館者（雪舟に興味のある人）の常栄寺、十朋亭維新館への回遊促進を図ります。  		

具体的な事業一覧表

事業名	じょうえいじでいえんこうよう 常栄寺庭園紅葉ライトアップ 単独事業		
実施主体	宗教法人 常栄寺	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	常栄寺庭園（山口県山口市）		
事業概要	【概要】 紅葉の時期に期間限定で、庭園をライトアップし、夜間開放するもの。 （通常は日中のみの開園） お抹茶席の準備もあります。（希望者を対象。別料金） 【開催時期（予定）】 11 月下旬 		

具体的な事業一覧表

事業名	じょうえいじ じょうとくじていえんみりよくかいせつ 常栄寺・常德寺庭園魅力解説イベント 単独事業		
実施主体	山口県山口市	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	常栄寺庭園、常德寺庭園		
事業概要	【概要】 庭園の専門家及び文化財専門員による常栄寺庭園、常德寺庭園の解説を実施し、その魅力を発信するイベントです。 年間を通じて実施することを予定しており、今後は、地元の方々に庭園ガイドを担っていただけるような仕組の構築を図ります。 【開催時期（予定）】 春季（境内枝垂桜がきれいな時期） 夏季（境内ギボウシがきれいな時期） 秋季（境内イチョウの紅葉がきれいな時期） 冬季（借景部分の樹木の葉が落ち、岩盤の様子がよく見える時期）		

具体的な事業一覧表

事業名	雪舟 ^{せつしゅうせいだん} 生誕600年記念スタンプラリー（雪舟生誕 600 年関連事業）			単独事業
実施主体	山口県山口市	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度	
実施施設	C・S 赤れんが（山口市後河原地内） 他			
事業概要	【概要】 山口市内の雪舟ゆかりの地や、雪舟関連の展示を行っている施設と連携し、複数施設を回遊された方に、ノベルティ等をプレゼントするイベントを実施。 なお、期間中、C・S 赤れんがでは、山口県出身の日本画家・馬場良治氏による、雪舟に着想を得た展覧会を開催する予定です。 立寄場所 ・C・S 赤れんが ・十朋亭維新館 ・常栄寺雪舟庭（ゴール） 【開催時期】 令和 2 年（2020）9 月 16 日～9 月 27 日 			

具体的な事業一覧表

事業名	雪舟 ^{せつしゅう} ゆかりの地 ^ち バスツアー（雪舟生誕 600 年関連事業） 単独事業		
実施主体	山口県山口市	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	常栄寺庭園他		
事業概要	【概要】 雪舟ゆかりの地を巡るバスツアーを開催する。（文化財専門員による解説を実施） 立寄場所（案） ・常栄寺庭園（国指定史跡及び名勝・構成庭園） ・常德寺庭園（国指定名勝・構成庭園） ・善生寺庭園（県指定名勝・伝雪舟庭） ・雲谷庵跡（市指定史跡・構成要素） ・長門峡（国指定名勝・構成要素） 【開催時期（予定）】 令和 2 年（2020）11 月 ※新型コロナウイルスの影響により中止		

具体的な事業一覧表

事業名	企画展「雲谷庵展」及び関連イベント 単独事業		
実施主体	山口県山口市	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	山口市歴史民俗資料館、雲谷庵跡		
事業概要	・企画展「雲谷庵展」 【概要】 雪舟および雲谷派絵師が水墨画創作のアトリエとしたことで知られる「雲谷庵」は、明治初年に失われてしまいますが、その後、山口県の修史事業に貢献した近藤清石などの有志により再建され、定期的に短歌の会が催されていました。 企画展では、この会で詠まれた短歌を中心に、市民と雲谷庵の関係性や歴史をひも解きます。 【会場及び開催時期】 展示会場 山口市歴史民俗資料館 第1展示室 展示期間 令和2年10月10日（土）～12月6日（日） ・雲谷庵展関連企画「雲谷庵で歌会を」 【概要】 「雲谷庵展」の開催に合わせて、市内外から広く短歌を募集し、雲谷庵跡建物及び歴史民俗資料館で展示します。 【会場及び時期】 短歌募集期間 令和2年7月15日（水）～8月31日（月） 展示会場 山口市歴史民俗資料館及び雲谷庵跡 開催時期 山口市歴史民俗資料館 企画展開催期間に同じ 雲谷庵跡 令和2年10月24日（土）～12月6日（予定）  雲谷庵跡		

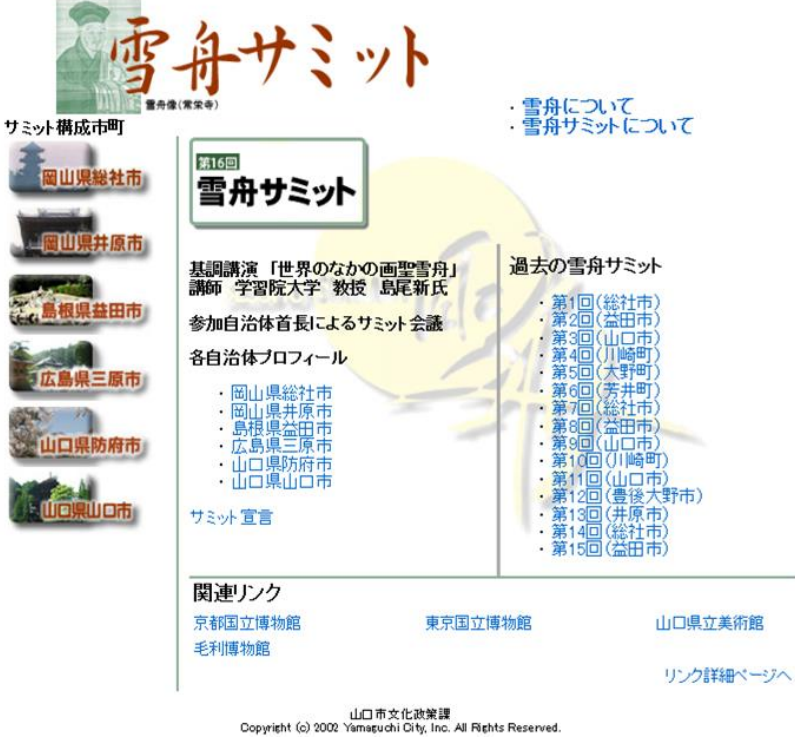
具体的な事業一覧表

事業名	^{ていえん} 庭園ガイド ^{ようせい} 養成 広域連携事業		
実施主体	雪舟回廊協議会	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	構成庭園及び庭園以外の構成施設		
事業概要	【概要】 構成自治体で活躍する観光ボランティアガイドに、登録された計画の周知を図ることで、登録された計画のテーマを魅力的に案内ができるガイドを養成する。 ガイドの際には自らの自治体だけでなく、協議会構成自治体のガイドも併せて行うことで、周遊促進を図る。 また、庭園ガイドの案内の際の参考資料として「雪舟回廊」の全容をわかりやすく解説したパンフレットを作成し、配布する。		

具体的な事業一覧表

事業名	テーマ ^{りょこう} 旅行の造成 ^{ぞうせい} 及び販売 ^{およびはんばい} 広域連携事業		
実施主体	雪舟回廊協議会	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
実施施設	—		
事業概要	【概要】 萩・石見空港利用拡大促進協議会等を通じ、クラブツーリズムテーマ旅行部など主に首都圏の旅行会社のテーマ旅行を扱うセクションへの旅行商品造成を働きかける。 その他、各県及び自治体で開催される旅行会社を対象とした観光情報説明会等（インバウンド含む）にも観光セクションを通じて情報提供・営業活動を行う。		

具体的な事業一覧表

事業名	ホームページを活用した情報発信 広域連携事業		
実施主体	雪舟回廊協議会	事業期間	令和 2 年度 ～ 令和 6 年度
実施施設	—		
事業概要	【概要】 既存の雪舟サミットのホームページに構成庭園の見どころ等を紹介するコンテンツを組み込む。  ※写真は雪舟サミットホームページ（TOP）		